

新たに市の文化財を指定

指定日 平成24年10月24日

史跡の部

「峠のシンシ垣」

小泉・大久保地先

農民の文化財「シンシ垣」

伊吹地区と小泉地区を結ぶ県道の東側は、標高約300m前後の台地状に張り出していて、通称「峠」と呼ばれています。肥えた土壌や寒暖差、伊吹山から吹き降ろす風などの自然の恵みを受けて、古くから地域の農耕地として栄えてきました。

ここに、江戸時代の農民たちがイノシシやシカの被害から大切な耕作地を守るために作ったのが「峠のシンシ垣」で、延長約2kmと県内屈指の規模で良好に残っています。

江戸時代末期の文書には、村を焼きつくすような大火、大雪、イノシシやシカの襲来でシンシ垣普請が続いた際、「放っておいたら古くから守られてきた大切な畑が山林になってしまふ」といった悲鳴に近い文言が記されています。シンシ垣は、大変な苦勞のもとで先祖伝来の農地を守ってきた歴史が刻まれた「農民の文化財」なのです。

今日も獣害による農作物の被害が深刻化していますが、シンシ垣に見られる先人の知恵や団結力、農地を守る気持ちなど、学ぶことも多いのではないのでしょうか。

地域の守り人



大久保区長
長尾 龍秀さん

大久保は、かつて「大窪」と表されていたように、くぼ地で耕作地が少ない土地柄です。拓かれた峠の台地やシンシ垣からは、先人の農地を大切に思うのが感じられます。

現在は、県道が整備されたため地元でも峠を通る人は少なくなり、若い世代の中にはシンシ垣のことを知らない人もいると思います。今回の文化財指定が地域の魅力の再発見となり、新たなまちづくりにつながってほしいと思っています。



▲姉川に張り出した台地全体を山から遮断するように構築されているシンシ垣